

◇第四回二〇〇九年度遠藤周作学会・全国大会開催

第四回二〇〇九年度遠藤周作学会・全国大会は、二〇〇九年九月十九日(土)に、東京、世田谷の昭和女子大学で開催された。

運営委員会が行われた後、一三時より笠井秋生代表の開会の辞にはじまり、以下プログラムのとおり研究発表、総会が行われた。大会進行役は昭和女子大学の笛木美佳氏とノートルダム清心女子大学の山根道公氏、城西大学の太原正裕氏が担当した。

プログラム

【研究発表】

①遠藤文学における肺病体験の意味

星美学園短期大学 武田秀美

司会 京都外国語大学 長濱拓磨

②遠藤周作『イエスの生涯』とシュタウファー

『イエス その人と歴史』

八女学院高等学校 管原とよ子

司会 長崎県立大学 下野孝文

③〈悪〉と〈罪〉との分離

—『スキュンダル』におけるカトリック的身体

中村女子高等学校 桑原理恵

司会 文芸評論家 今井真理

④対比文学研究の方法について

—多面体の作家遠藤周作とドストエフスキーの場合

横浜女子短期大学 兼子盾夫

司会 白百合女子大学 福田耕介

## 【総会】

総会は、議長に四国大学の阿部曜子氏を選出して開かれた。まず、二〇〇八年度事業報告がなされた。内容は次のとおり。

- ◆ 第三回二〇〇八年度遠藤周作学会・全国大会を関西学院大学にて開催

- ◆ 機関誌『遠藤周作研究』第2号発行

第三回遠藤周作研究会の発表者三氏に加え、ほか三氏の投稿論文を掲載。二〇〇八年遠藤周作参考文献目録に加えて研究展望も収録。創刊号は完売したため、第二号は五〇部増で二五〇部作成、一部千円（送料込）で販売も行う。

- ◆ 「遠藤周作研究会」から「遠藤周作学会」へ改称

次に、事務局より二〇〇八年度会計報告が行われ承認された。

続いて、代表より二〇〇九年度事業計画について示され、承認された。内容は次のとおり。

- ◆ 機関誌『遠藤周作研究』第3号発行について

二〇〇九年九月発行予定、原稿締切は二〇一〇年三月末。必ず30枚厳守で完全原稿を提出のこと。（投稿規定は本会報の四ページに掲載）

- ◆ 『遠藤周作事典』の作成について

現在、笠井代表と事務局で項目の選定中。準備に数年は必要。リストアップ後に多くの会員の協力を得て完成させたい。

- ◆ 二〇一〇年度の大会は、長崎の遠藤周作文学館で、九月十八日（土）に開催することが決定。

その後、新入会員4名の紹介が行われた。また、遠藤文学館の池田静香研究員より、来年の遠藤周作文学館十周年記念の展示に向けて準備中であること、「遠藤周作蔵書目録」を発行予定であることの報告がなされた。

最後に開催校の昭和女子大学の笛木美佳氏の閉会の辞をもって全国大会の日程を終了した。続いて、懇親会が同大学内の人見記念講堂地下にて盛大に行われた。

## ■ 事務局より

▼第四回遠藤周作学会・全国大会は、学会としては初めての大会となりました。参加者は会員二十七名および聴講者約十名で、周作クラブの会員の参加もあり盛会となりました。

▼「遠藤周作研究」第3号の投稿論文を募集します。投稿規定をご覧のうえ、会員の方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。投稿予定の方は、予め十二月末日までに投稿論文のタイトルを明記の上、事務局に執筆の申し込みをすることになっているので注意してください。

▼今回は会場校の入口に「遠藤周作学会」と大きく書かれた看板が掲げられているのを目にして、改めて学会になったことの重みを感じないではられませんでした。学会の名に恥じない会の内容の充実と会員の拡大が求められます。今後とも学会の発展のため、会員の方々のご協力を心よりお願い申し上げます。

▼次回の研究発表の申込みは来年五月末日締切りです。三月に改めて募集のお知らせをいたします。次回の会場は、遠藤文学とは最も関係の深い土地・長崎で、しかも『沈黙』の舞台の地にあって、来年ちょうど十周年を迎える遠藤周作文学館です。この場所にふさわしい内容の研究発表が多くなされることが期待されます。多くの会員の方々と長崎の地に集うことができ、充実した大会になりますことを願っています。

※ 会員の皆様の短信を掲載する予定でしたが、ご回答が集まらなかったため、今回は見送らせていただきます。何卒ご了承ください。

# 『遠藤周作研究』 投稿規定

一 遠藤周作学会の機関誌として、広く会員の意欲的な投稿を歓迎します。投稿論文が掲載予定数を上回った場合は遠藤周作研究会で発表されたものの掲載を優先させていただきます。

二 投稿論文は原則として縦書きで、字数は四〇〇字詰原稿用紙に換算して三〇枚以内（注も含む）とします。

三 論文は完全原稿で二部提出してください（フロッピーを添付のこと）。執筆者の校正は初校のみです。

四 論文の審査などは編集委員会が行いますが、加筆・訂正などを依頼する場合があります。

五 投稿論文の執筆者には印刷費などの費用として一万円（二〇部買い取り）のご負担をお願いします。

六 投稿論文の締切りは、毎年三月三十一日（必着）とします。ただし、前年の十二月末日までに投稿論文のタイトルを明記の上、事務局に執筆の申し込みをしてください。

七 投稿先は 〰遠藤周作学会事務局 〰。

## 遠藤周作学会 事務局

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

ノートルダム清心女子大学 山根道公研究室

TEL: 089 (252) 3129

E-mail: yamane@post.ndsu.ac.jp